

活動の名称	五千石小学校教育を支援する会（五光会）
取 組 内 容	五光会は、五千石小学校の子どもの豊かな心を育むために出来た会です。平成5年、子どもの数の減少に伴いPTA会員（保護者）数も減少し、PTA予算も減少して行きました。子どもたちのために出来ることが減ってくることを危惧していた当時の役員と教職員の方々が、何かいい方法がないかと模索していました。そんな時他校では校区から支援を受けている学校もあると情報があり、色々と調べて明道小学校の取組をモデルに、PTAのOB会として「いなほ会」という組織が出来ました。その中で、当時の公民館長のアドバイスで、各地区自治会長にも声をかけたらいいということで、地域全体で子どもを支える会へと拡大させて、会の名称も五千石小学校校章にある五つの光をモチーフにした「五光会」に変更し、今日に至っています。 組織としては、代議員会、役員会、推進委員会からなり、各地区の保護者の方を「協力費訪問委員」として、各家庭（原則全世帯）を訪問し寄付金（任意）を集めていただき、会の運営費に充てています。そして事務局は五千石小学校にお願いしています。 活動の主だったものでは、子どもたちに農業の一環を理解してもらうため、米づくり活動として、もち米を田植えから稲刈り、脱穀を体験させ、年末近くにはその米で「もちつき集会」を毎年行なっています。3月にはその米で作った「紅白の祝いもち」を卒業生とその保護者及びお世話になった地域の方々にも配っており、現在も子どもたちの楽しい行事として続いています。又、年一回機関紙「五光会だより」を発行し、地域の皆さんに向けて活動の状況を報告し五光会について理解していただくようにしています。 環境整備事業としては、令和元年に55型液晶TV・スタンドを購入し、全学級（7学級）に設置しました。授業でタブレットをつないで、写真や動画を瞬時に視聴できるので、子どもたちの学習意欲が高まっていくことに役立っています。翌令和2年には、特別教室にも大型液晶TV・スタンドを設置しました。また学校児童活動支援として児童作品展出展費の補助や小学校新聞購入、文集「あじさい」の購入を毎年行っており、単年度では熱中症対策で運動会用のテント購入や、中庭の整備・池の補修作業等も行いました。 地域児童支援活動では、子ども会育成会、スポーツ少年団（バレーボール、ミニバスケットボール、野球、マーチングバンド）への補助を行い、子どもたちの心身の成長の一助になればと思っています。 令和2年から新型コロナウイルス感染症の広がりがありましたが、保護者の懸命な努力により各家庭からの協力金は例年のように集めていただき各事業は何とかやり遂げてきました。 令和4年にはコロナ感染症も終息の兆しが見え始めたので、感染症により活動の自粛を強いられてきた子どもたちのため、秋の「全校バス遠足」を計画し「とっとり

花回廊」に行くためのバス代等の支援を行い、子どもたちは心より楽しい一日を過ごすことができました。令和5・6年も続けましたが、特に本年（令和7年）は音楽会発表に向けた練習を兼ねて、3・4年生が真っ赤なサルビアが咲く丘で大山をバックに合唱し、一般のお客さんも足を止めて聞いてくださり、温かい拍手を頂きました。子どもたちには一生心に残る思い出となったことでしょう。ある時、数人の子と話す機会があったので、「五光会」って知っている？と聞きました。「知らない」と答えたので、「花回廊へのバス遠足」をしている会だよと言ったら、その子は瞳を輝かせて「僕たちの学年だけでもいいから来年も絶対に連れて行って欲しい！」と言ってくれました。それだけ楽しい思い出が心に残っていることが分かり、今後も是非続けて行こうと思っています。



課題

少子化の波は五千石小学校も例外ではなく、緩やかな児童数の減少が続いています。それに伴い、会費の寄付を集めていただく保護者の数も、各地区1名～数名となり、一人当たりの回る世帯数が多くなり負担が大きくなっています。また、子どもが一人もいない自治会も出てきており、今後の協力費の集め方を見直す必要も感じています。

ただ、子どもは地域の宝です。この子たちは将来地域を背負っていくであろうと思われます。子どもに体験し、感動したことは一生忘れることはないと思いますし、生きる力や脳の成長にも繋がると思います。子どもたちが瞳を輝かせて夢中になれる機会を作ってあげれば、生きる上での大切な土台になると思います。五光会を継続させるために、学校・保護者の方々と一緒になり、子どもたちのために何ができるか、どうすれば子供たちのために楽しい活動ができるか、また、マナーにならないような活動・事業を考えて、時代と共に変化する子どもたちに沿った会にして行くことが今後の大きな課題だと思います。

活動の名称	五千石地区若者の会 五千石青風の会
取 組 内 容	五千石青風の会は、五千石地域の行事やイベントに10代・20代の青少年がボランティア活動に参加することを通して、地域の次世代の担い手を育成するために発足しました。地域の活動に参加することで、地域との繋がりを深め、人間関係を構築し、地域の良さや地域の魅力を再確認し、次世代の担い手としての自覚を促しています。地域としても若手が参加することで、更なる地域の活性化を図る目的です。 令和5年4月1日に発足し、米子つつじ祭りでは45人のメンバーが参加しました。地区民大運動会では大人に混じり役員をし、かき氷のバザーも行いました。他の子ども万灯、福市遺跡公園清掃、公民館祭、若鷹ペタンク大会、小学校餅つき大会、防災フェスタなど様々な行事で活動しております。また防災にも力を入れており防災士の資格をとり、地域防災にも取り組んでいます。今年も二人資格を挑戦しています。 参加したメンバーの感想は「地域の人に久しぶりに出会った時に声をかけてもらって嬉しかった」「頼られるのが嬉しい」「出来る事をやってみたいと参加した」「知らない人同志でたくさんの人のお手伝いする事がたのしかった」などがありました。 活動を通して同年代の繋がりは勿論、異世代との交流をすることにより縦・横の繋がりが強くなりました。顔を見れば声をかけて頂ける優しく温かい街で活動することは、今まで私たちを育ててくださった地域への恩返し、五千石の活性化、次世代へのバトン渡しになるとおもいます。少子高齢化が進む現代で「これからの五千石は安心だ」と安心していただけるよう地域貢献に取り組む続けようとおもいます。  
課 題	大学進学以降、地元に戻る人が少ないため会員の流動が激しい。 青風の会で交流したりボランティア活動をしたりする楽しさを全面にアピールして、五千石の良さを再認識していただけるよう活動を進めていき、より多い人数で五千石を支えていきたいです。

活動の名称	地域での子ども会活動
取 組 内 容	巖地区の子ども会活動は、子どもたちで「考え・行動する」をテーマに活動しています。 今年度は、6月に「クイズウォークラリー」を開催しました。 子どもたちが計画し運営までを担当します。 今回は公道を歩く「クイズウォークラリー」のため、計画については米子市子連のジュニアリーダーさんにご協力いただきました。 子どもたちはジュニアリーダーさんの協力のもと、安全に歩くためのシュミレーションをしたり、公道を利用するために警察署へ使用届を提出したりと、自主的に動きました。 当日は地域の自治会長さんや交通安全協会、民生児童委員協議会のみなさんにご協力をいただき、地域を巻き込んでの活動となりました。 子どもたちや、保護者の方々も用意など大変だったとは思いますが、100名を超える参加があり、事故もなく無事に終えることができました。 地区の子どもたちの成長を願いながら、地域の方にご協力いただき、これからも活動をしていきたいです。
課 題	子どもたちの意見を聞き実践すること。 安全面を考慮し、地域を巻き込み活動へつなげること。

活動の名称	ホタルネット春日
取 組 内 容	日野川以東の箕蚊屋平野に位置する春日地区は、水稻を生産する農業振興地帯ですが、圃場整備の為に水路等の改修により、ホタルなどの自然生物が絶滅の危機となった。平成19年に地域の自然環境の浄化と保全並びに地域住民の交流と相互協力を目的に、ホタルネット春日を立上げホタルが飛翔する自然豊かな地域作りに、会員47名（内、現・元自治会長が約30名）が取組んで19年目となります。 事業は、6月にゲンジホタルのオス・メスを捕獲し交尾産卵させ幼虫を育成して10月下旬に春日地区内3箇所の用排水路に約600匹の幼虫を放流します。箕蚊屋小学校5年生が授業の一環として、箕蚊屋中学校横の排水路に幼虫を放流します。（写真参照） 箕蚊屋小学校でもホタルの幼虫を育成しています。 5月には、「ホタルと遊ぼう」のイベントとして、竹灯籠を会員指導の下子ども達が作成し、「かすがの郷（旧春日保育園）横の排水路に設置して「ホタルと遊ぼう」のイベントに竹灯籠に灯りを灯します。（写真参照） 6月第1土曜日に事業最大のイベント「ホタルと遊ぼう」を開催、子ども・保護者、住民、米子市長、国会議員などの来賓を含め約150名で開催して、缶バッチを作成、ホタルクイズなどでイベントを盛上げ、最後に全員でホタルの観賞をします。 以上、地域住民、学校が連携をして地域住民の交流と子ども達に自然の大切さを学んでもらっています。
課 題	・ 自然相手の為に、ホタルの飛翔が多い年もあれば少ない年もあるので、参加者の把握が難しい。 ・ ホタルネットの会員の高齢化で後継者育成が課題となる。 ・ 事業運営には、運営資金が必要な為となり、その原資調達が課題である。



活動の名称	春日公民館祭の青空市場
取組内容	春日公民館事業の三大事業である「春日ふるさと祭り、春日地区大運動会、春日公民館祭」及び春日公民館の情報誌「春日館報」の編集を自治連合会として携わっていますが、この度は、春日公民館祭の青空市場について紹介致します。 春日公民館祭は、毎年11月初旬に開催を致します。同時に、グラウンド大会も開催をしますので盛大な公民館祭となりますが、その時に、春日自治会長会で青空市場をオープンします。（写真参照） 単位自治会会長が売り子となり自分達で仕入れた、ハム類、果物、乾物類、平茸、焼き芋などを市価より安いかどうか解らないけど来場者に購入をして頂いています。 令和7年はグラウンド大会参加者を見こんで大量に仕入れましたが大雨で中止となり、売れ残りを心配しましたが、最後は、押売り状態で完売を致しました。 以上の様に、単位自治会の会長が一致団結をして、公民館を盛上げています。
課題	・ 単位自治会の会長が2年で交代をして、継続に懸念がある。



活動の名称	大高わくわくサークル
取 組 内 容	学校が週休2日になり、土曜日の午前中の子供達の居場所づくりを考えました。 「子供は地域の宝。地域で子供を育てよう。」を合言葉に、地域ボランティアでわくわくサポート隊を結成し、平成15年4月より土曜日の午前中(9時30分～12時)大高公民館を開放していただき、大高わくわくサークルを開催しています。 小学校行事や地域行事や年末年始等を除くと年間36回程度開催してきました。 令和2年3月から令和4年10月までコロナ禍で休止していましたが、その後再開し、現在は月に2回程度開催しています。 ★ コロナ禍の休止期間以外、毎年やっている行事 ～料理系～ ・ちまき(笹巻)作り ・クッキー作り ・ピザ作り ・流しそうめん ・団子作り ・焼いも作り ・クリスマスケーキ ・長い巻き寿司 ～工作系他～ ・母の日のプレゼント作り ・父の日のプレゼント作り ・夏休みの宿題やろう ・スライム作り ・プラ板作り ・ハロウィングッズ作り ・本のしおり作り ・クリスマスリース作り ・凧作り&凧あげ ・ひな飾り作り ・昔遊び ・毎年はやってないけど… ・アイス作り ・パフェ作り ・フルーツ飴作り ・いちご大福作り ・そば作り ・正月飾り ・鯉のぼり作り ・七夕飾り ・どんぐり細工 ・写真立て作り ・卓球 など ☆ 料理系は申込が必要で100円です。工作系は申込不要で無料です。 料理系の参加は20人前後で、工作系は5～15人前後です。 スポ少のオフ等が重なると、参加者が40～50人前後になることもあります。
課 題	特にありません。

活動の名称	公民館活動の見直しについて
取 組 内 容	令和7年度から新たな取り組みとして長年継続してきた「公民館祭」と「きないや・いかいや市」を一つの事業「あがたフェスティバル」として実施しました。一つの事業としてまとめた理由は、より多くの方に公民館へ来館していただくことに加え、自治会役員の負担軽減を図るためということを考え計画しました。 事業を一つにまとめたことにより、準備についても公民館役員が分散して会場設置を行い役員の負担軽減がはかれたものと思います。また、写真のとおり一部を買い物ができる通りとして賑わいを創出する工夫がされたことにより、結果として公民館の展示を見学に来た人についても前年比25%増になっていました。会場をグラウンドと駐車場、公民館の3会場で実施したこともあり、トータルでは前年比50%増くらいの賑わいがあったものと思います。 人が循環できるようなお店の配置などの改善点はありませんでしたが、継続して実施することで新たな来場者につながるものと思います。 大きな決断をして取り組んだ初めての事業で様々な問題点がありますが、「まずはやってみる」ことにより問題の所在が明確になり、その後に検証していくことで、そこから全ての事業の見直しにつながっていくものと思います。 
課 題	・近年、地域活動を担う人材不足が大きな問題になっているが、地域の方に負担感なく楽しみながら関わっていただけるよう事業内容や実施の仕方を考えていきたい

活動の名称	芝生広場を活かした淀江の地域づくり
取組内容	【取組の概要】 R 元年度：淀江・宇田川保育園の統合建て替えを要望 R 2 年度：淀江保育園・幼稚園跡地を防災公園として整備することを要望 R 3 年度：淀江保育園跡地利用検討委員会を発足 R 5 年度：旧淀江保育園・幼稚園建物の解体撤去 R 6 年度：米子市防災備蓄倉庫新築と淀江保育園跡地に待望の芝生広場が完成 R 7 年度：維持管理用乗用芝刈り機を購入 その活用策の第 1 弾として去る 11 月 22 日（土）に「よどえ防災フェスティバル」を盛大に開催しました。 オープニングは淀江キッズクラブのダンスとトランペット演奏、さらに、米子市消防団淀江町第 1・第 2 分団の日頃の活動を紹介するため消防操作を実施した後、災害等様々な場面で活躍するドローンの災害時の活用方法を学びました。お昼からは、先着 10 名による大声大会や参加者全員による防災〇×クイズを実施し、たくさんの人達が参加しました。 一方、体験コーナーでは、火災時の煙空間を実際に体験したり、いざっ！という時、消火器が使えるかどうか水消火器を使って消火訓練もおこないました。 お楽しみコーナーでは、グラウンドゴルフやモルックのほか、急ぎょ実施することになった「米子城ふわふわドーム」など、子ども達にとっても人気があったようです。 みるコーナーでは、消防自動車の見学や防災服を着て記念撮影、米子市防塞備蓄倉庫の見学、米子消防器具商会さんによる出張展示やホース等の修理等のご相談コーナーも設けられました。 食べるコーナーでは、淀江町赤十字奉仕団の皆さんによる豚汁 200 食と防災食わかめご飯 200 食の作り方講習を実施していただいたほか、「幸せの黄金鯛焼き」とコーヒーのキッチンカーも登場しました。また、中学生以下の人には地区社協福祉協議会からミニ綿菓子プレゼントもありました。 さらに、JA 祭りも同時開催され、新鮮野菜の即売会や農作業中事故の VR 体験、「新聞合いおにぎり」先着 300 個無料配布、にんじん・さつまいも詰め放題などのイベントも開催されました。

	
課 題	【成果と今後への展望】 災害時には防災の拠点として、平時には地域住民の憩いの場として、淀江公民館まちづくり協議会を中心に各種団体と協力しながら私達、淀江地域住民全員でこの広場を大切に活用していきたいと思います。 災害は忘れたころにやってくる。もうそんな悠長な時代ではありません。毎年日本のどこかで大規模な災害が発生しています。今回の「よどえ防災フェスティバル」が、防災という切り口でこの芝生広場を活用した淀江の地域づくりの端緒になればいいなと感じています。

活動の名称

宇田川青少年育成会の活動

取組内容

当会は主に宇田川地区に在住する子供達の健全育成を目的とし、年間様々な事業を計画して行っております。しかし、近年の宇田川児童の減少に伴い淀江町内の他地区のお子さんにも多数参加していただいています。郷土芸能の「淀江さんこ節」を通じて郷土を愛する子どもたちを育てるために、宇田川地区にとどまらず様々な舞台上で芸能出演をしています。特に今年は大阪関西万博にも出演するなど国内外からも注目を浴びつつあります。

沖縄交流

当会は、沖縄県読谷村との民泊交流を機に楚辺子ども会と32年間継続して交流を行っています。冬の交流は毎年宇田川に来ていただき、夏の交流は2年に1回楚辺の方に育成会の児童と引率の大人が行っています。

子ども達は、大人になってもなお民泊でお世話になった家庭の子供達と連絡を取り合うなど交流が今も続いています。

大阪・関西万博出演



令和7年7月1日(火) 会場2箇所にて芸能披露

冬の沖縄楚辺子ども会との交流(宇田川)

交流期間: 令和7年2月7日(金)～10日(月)



●青年の家宿泊(1日目)



●宇田川への民泊体験(2日目以降)

夏の沖縄楚辺子ども会との交流(楚辺)

交流期間: 令和7年8月15日(金)～18日(月)



●楚辺ビーチ(2日目)



●楚辺での民泊体験(2日目)

その他にも... 夏のキャンプ・秋の文化祭バザー・年末のしめ縄づくりなど



●キャンプでのBBQ



●焼き芋や綿菓子のバザー



●しめ縄作り

※ 事業内容は年度で変更される場合があります

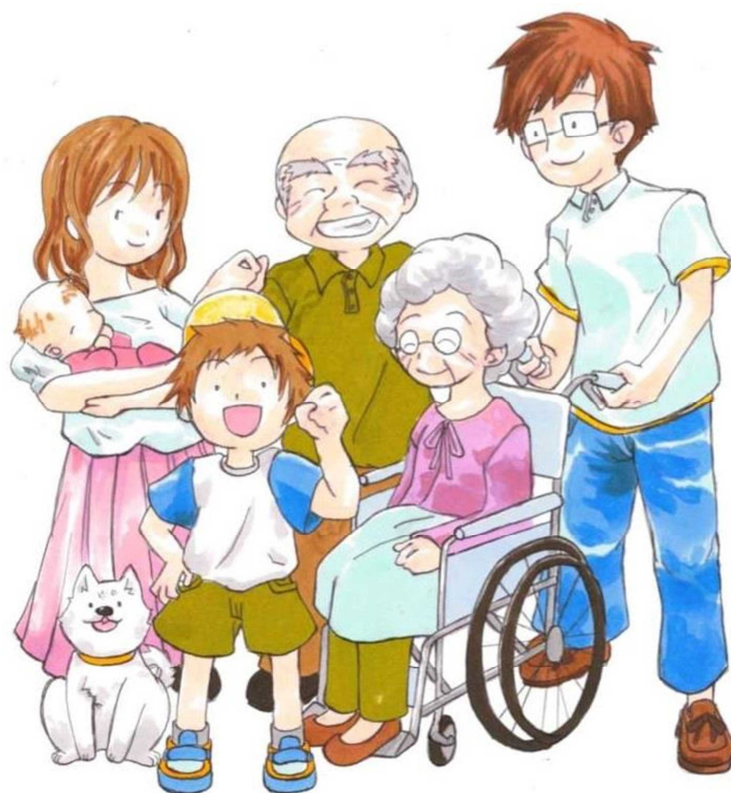
課題

- ① 宇田川地区は淀江や大和に比べ極端に児童が少ない状況にあり自治会によっては子ども会も無くなったところもある。そのような現状から入会してくる児童が少ない。
- ② 該当家庭も減少していることから毎年楚辺から来られる児童の民泊受入れ先がなかなか決まらない年もあるのが現状。
- ③ 他地区からの児童やその保護者にも参加してもらうため、幅広く情報発信をする必要がある。



Instagram
やっています!!

活動の名称	大和海岸・小波海岸清掃
取 組 内 容	大和地区では、大和地区環境をよくする会主催（大和地区自治連合会共催）で大和海岸及び小波海岸の清掃を行っています。この清掃には、各自治会員の積極的な参加により海岸及び周辺の美化活動として毎年、恒例の活動として定着しています。 特に、小波海岸では、松林の下草除草も行われており松林の景観を保つために欠かせない活動となっています。 また、小波地区内を流れる塩川では除草作業などが行われ、きれいな川として地域の自慢になっています。
課 題	・ 年々高齢者の増加による活動への参加者が減少傾向にあり、若年層の参加向上 ・ 行政を巻き込んだ不法投棄への対策強化



編集・発行

米子市自治連合会

『自治会活性化委員会』

(事務局) 鳥取県米子市加茂町1丁目1番地

米子市総合政策部地域振興課内